



全国学力・学習状況調査（6年：国語・算数）結果について



6年生が4月18日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が、7月31日に公表されました。岡崎市内の小学校の成績は、全国平均及び県平均を上回っていました。

さて、調査対象学年は、小学6年生と中学3年生で、教科は、「国語」、「算数」（数学）の2教科です。この調査は、「義務教育の機会均等とその水準の向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことを目的として実施されています。あくまで授業改善がねらいですので、岡崎市をはじめ多くの都道府県や市町村は、過度の競争や序列を避けることから、校名を上げた数値の公表はしないことにしています。

それでは、本校の結果が全国・県平均と比べてどのようであったのか、その概要をお伝えしたいと思います。まず、常磐南小全般的な状況については、全国・県平均と比べ上回るものでした。項目別には、国語の「読むこと」が「たいへんよくできている」、「話すこと・聞くこと」も「よくできている」状況でした。また、算数の「数と計算」「数量関係」については「たいへんよくできている」状況でした。このような結果から見て、6年生全体としてはとてもよく頑張ったと思います。（詳しくは、教務主任から配布された「令和元年度全国学力状況調査における常磐南小学校児童の結果について」を参照ください。）

今回の調査で課題となる具体的な問題について、国語では「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力」「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く力」が弱く、算数では「図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができる力」「加法と除法の混合した整数と少数の計算する力」が弱い点などが挙げられます。また、家庭学習の時間が多いほど正答率が高いというわけではなく、学習に主体的、効率的に取り組むことが効果を高めていると考えられます。

最後に、「生活状況」については、「夢や目標を持っている」「人が困っているときには、進んで助けている」「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」「地域の行事に参加したり、地域や社会をよくするために何をすべきか考えたりする」児童の割合が、全国平均を上回っていることがわかりました。

こうした結果は、教える側の先生の指導力とともに、主体である子どもたちの学習意識・意欲、生活習慣の確立などが要因ではないかと考えます。今後、少しずつ学習習慣に目が向くように、また、毎日の授業が楽しいと感じられるように努めていきたいと思っています。